

令和２年度青森県地域医療構想調整会議（書面開催）に係る意見等と対応

No.	構想 区域	意見の内容（一部要約）	意見への対応	提出者
1	上十三	<p>（資料4：上十三地域における病院の機能分化・連携の方向性）</p> <p>今後の上十三地域の人口統計を見ると、65歳以上の高齢者人口は、ここ20年ほど維持されるが、それより若い人口は、毎年2,000人程度減っていくことが予想される。そのような環境の中で、従来のように医療需要が右肩上がりで見えたと考えるのは、所詮無理があり、人口とともに需要は減少していくことを想定しなければならない。</p> <p>書面会議で今回示されたように、令和7年までに急性期病床は3割程度の削減が、回復期病床は倍増が望まれている。この急激な病床機能の変動を、病院の自主性に任せていては、とても目標値に達しないと考える。</p> <p>2頁に、上十三地域の各病院の取組内容が示されているが、病床機能からみた具体的な数値が記載されていない。青森県健康福祉部が主導権を握って、急性期と回復期病床の具体的な数値を各病院に提示することが必要と考える。</p> <p>今回のコロナ感染症対策で明らかになったように、中小の病院が多いことによって医師や看護師が分散されると、病院の最も重要な使命であるはずの急性期疾患に対する機能の維持が困難になる。本来の急性期医療を行うためには医療従事者の集約化が必要で、その分回復期や慢性期病床の負担軽減を図ることができると思う。青森県の強いリーダーシップに期待する。</p>	<p>地域医療構想に基づく病床の機能分化・連携については、医療機関の自主的な取組が基本となりますが、引き続き、地域医療構想調整会議を活用した医療機関相互の協議を行っていきます。</p>	<p>十和田市立中央病院</p>